

本を選ぶ

NO.486 2025年(令和7年)11月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>鳥の言葉

●大学教員ノート 第14回

●「あいだ」に身を置き、とどまって考えるために



ろん・ぼわん

鳥の言葉

シジュウカラの言葉を解明して鳥類の言語を世界で初めて発見した鈴木俊貴さんは、今年、英国の動物研究協会から国際賞を受賞した。日本人初受賞だそうだ。今年初めに刊行された新著『僕には鳥の言葉がわかる』（鈴木 俊貴著／四六判並製／小学館／2025年）は「キャベツと闘い、バッタを集め、たどり着いた鳥語の世界」という自身初めてのフィールドワークについて語り始める実に楽しい本だ。

刊行後、日に日に人気が高まり、「書店員が選ぶノンフィクション大賞2025」「第24回新潮ドキュメント賞」「第13回河合隼雄学芸賞」の3冠を達成した。専門性の高い内容ながら、やわらかな語り口と楽しい展開に魅せられた読者10万人以上が支持した結果だ。もうひとつ、あえて上製本にせず本のつくりが平明で、親しみやすい。これは編集者と鈴木先生のヒットだ。

その「ピーツピ・ヂヂヂ」の動物言語学者の鈴木先生がまだ大学学部在学中の指導教授は長谷川マサミ先生で、両生・爬虫類が専門。そしてもうおひとりお隣の研究室の先生も長谷川ヒロシ先生。鳥類が専門の先生のように、なんとなくだがひょっとしてと思っていたら、やはり長谷川博先生。愛するアホウドリを絶滅から救おうと奮闘す

る知る人ぞ知る研究者だ。かつてアホウドリは羽毛を採るために棍棒で虐殺され、絶滅ぎりぎりまで追い込まれた海鳥で、天敵がいなかったために逃げようとしなかったそうだ。だからアホウドリという名がついたらしい。ヒロシ先生は「アホだなんて失礼すぎる。改名すべきだ」と憤慨していたそうだ。

このヒロシ先生の取り組みについては、実は本誌掲載の為貞人寄稿『鳥の目 86 — 島と大海原に生きる海鳥 —』（『本を選ぶ』437号／2021年（令和3年10月20日発行）に詳しい。以下、長いが引用する。

「伊豆諸島の鳥島など南海の孤島で絶滅したアホウドリの復活・調査・保全の第一線で活動されてきた長谷川博さん（現・東邦大学名誉教授）の近著『アホウドリからオキノタユウへ』（新日本出版社／2020年）によると、世界の絶滅のおそれのある海鳥類は約110種にのぼり、海鳥類全体の30%で、さらにそれに準ずる状況にある海鳥類35種を合わせると、海鳥のじつに4割近くが苦境に追いやられています」（原文のママ）「なお長谷川さんは「アホウドリ」の和名を近著では敬愛の念をこめて「オキノタユウ」の名称で呼ばれて」とある。

鈴木先生の本の巻末の特別付録には、シジュウカラの鳴き声を紹介するサイトにつながる二次元コードが7個付いている。「鳥たちが驚かないように、室内で音量に注意して聞いてください」との注意がある。いやはや心憎い配慮。（埜村太郎）

大学教員ノート 第14回

—移動図書館を想う直筆の「言葉」—

石川 敬史

『移動図書館の「いま」』——このたび、拙著を2025年3月末に日本図書館協会より刊行させていただく機会に恵まれた。お恥ずかしい限りであるが、学部学生時代から移動図書館の歴史に向きあい続けていたと同時に、「いま」の移動図書館の現状についても知りたい、調べたい、という想いをずっと抱いていた。全国の移動図書館の「いま」を知る資料としては、1979年に日本図書館協会が実施した全国移動図書館実態調査に留まっていたからである。1979年——「いま」から約25年前——人口が増加し、団地も急増し、図書館車の台数が各地で増加している時代の資料である。こうした拙著の刊行に至るまでの純粋な問題意識や、乱視で老眼の筆者が画面に示される数字の判読に悪戦苦闘した思いも同書に刻ませていただいた。ぜひお手に取ってご笑覧いただきたい。

拙著の中心的部分は移動図書館の実態調査報告である。図書館車を保有している全国の公共図書館を対象に、郵送にて質問票への回答を依頼させていただいた。返信用封筒にて、その回答が勤務先大学の筆者のポストに届くと、石川研究室内でコツコツ回答票を整理する——かなりの時間がかかってしまった。実態調査の構想や予備調査に1年、調査の実施と集計に1年、そして拙著刊行に1年——拙著に集計されたデータは、実に約数年前のデータである——「いま」すでに多数の軽自動車による図書館車が各地を走り、『日本の図書館』（日本図書館協会）の自動車図書館の台数が増加傾向にある「いま」を考えると、いささか古いデータであると批判もあった。

* * *

お世話になっております。回答が大変遅くなり、申し訳ございません。ご査収のほど、よろしくお願いいたします。

返信いただいた回答票に一筆箋が同封されていた。四国地方の図書館員——いつも大変お世話になっている方である——芸術的な筆使いに惹きつけられてしまった。

- ・お疲れさまです。よろしくお願い致します。
- ・ご活用頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。

100均の付箋と思われるが、直筆による温かいメッセージが回答票に丁寧に貼られていた。1件や

2件ではなかった。ご回答いただいた図書館員の想いが伝わる——そう、全国各地から到着する回答票には、移動図書館の「現場」を背負い奮闘する図書館員の「言葉」が同封されていた。

いつも大変お世話になっております。「移動図書館実態調査」をお送りします。遅くなりまして、申し訳ありませんでした。何か不備等ございましたら、お知らせいただければ幸いです。

一筆箋が同封されていた。このほかにも、名刺、巡回表、利用案内、チラシ、移動図書館に関する年表、歴史資料、新聞記事、統計類などなど、移動図書館への想いが込められた数々の情報も届いた。

* * *

ご無沙汰しております。〇〇号は引き続き現役で市内を巡っております。また機会がございましたら、当館へお立ちよりくださいませ。

驚いた。数年前に移動図書館を見学させていただいた東北地方の図書館員である。移動図書館の見学——そう、車庫の中に休んでいる図書館車を眺めるのではなく、巡回先での「現場」を視ることが重要である。そのためには、〇月〇日午後の



〇時に、場所は〇〇へ、という図書館の方々との調整・信頼関係づくり、そして同行させていただくための手段（レンタカーや自家用車で追走など）の手配が必要である。なかなか気軽に「現場」を見学することはできない。

- ・BMのルートが新しくなりましたので、来年度くらいに、ご来館いただければと思います。ご検討のほど、よろしくお願いいたします。
- ・いつもお世話になっております。ご多忙と存じますが、お変わりなくお元気でしょうか。別添のとおり回答いたしますので、ご査収ください。

ハサミで慎重に返信用封筒を開けると、直筆のメッセージが同封されていた。前者は、以前、移動図書館を見学させていただいた四国地方の図書館、後者は東北地方の図書館の方々からである。封筒を片手に、見学当時の光景がよみがえる。

＊ ＊ ＊

お世話になっております。数年前に当館の研修会でご講義を賜り誠にありがとうございました。

驚いた。数年前ではなく、約10年前……研修会の講師としてお声がけいただいた図書館からである。図書館の見学、懇親会、帰路に送迎いただいたこと——今でもはっきりと覚えている。

- ・こんにちは。〇年に〇〇県〇〇市で開催された研修会以来のご挨拶でしょうか。大変ご無沙汰しております。ご依頼の調査について回答しましたのでご査収下さい。〇月の〇〇研修では、事例報告ということでお世話になります。
- ・令和〇年度〇〇講座ではお世話になりました。…（略）…市域全体での読書のまち推進として様々な企画も考えております。今後ともいろいろご指導いただけましたら幸いです。
- ・…（略）…他の市町村様の状況等、ぜひ参考に使っていただきたく、調査結果の公表をたのしみにお待ちしております。〇年の〇〇講座で石川先生の講座を受講させていただきました。ありがとうございました。

この実態調査を通して、これまでに大変お世話になった皆様のお気持ちが届いた。本当に有難い限りであり、「言葉」を手にして、しっかり集計をしなければならない、と気持ちが引き締まる。

＊ ＊ ＊

- ・お世話になります。集計結果を公表される時はお知らせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
- ・このたびは、貴重なアンケート実施をありがとうございます。当館も移動図書館の年式が古くなり、更新についてや全国の情報がましかったため、結果報告をお待ちしております。

集計結果の公表や、その連絡を希望する図書館も数多くあった。回答にご尽力いただいたにも関わらず、無料の公開ではなく出版させていただくこととなり（購入しなければならないので）、大変心苦しい。

- ・回答票を返送します。移動図書館車につき、万一、お問合せくださるようでしたら、教育委員会生涯学習係の〇にお願いします。
- ・これからの図書館はどうあるべきか、常に考えておりますが、会計年度職員には大きな大きな壁があります。

ご回答いただいたデータへの問い合わせ先、同時に、これからの移動図書館への想いも直筆にて届いた。

30年物のハイエースです。私の大切な相棒です。…（略）…遠方だと往復120km程走行します。危険もありますが、やりがいのある業務です。学生の皆様に『BM最高!!』とお伝えください……。

メールやSNSなど合理的で簡単な「記号」の入力ではなく、図書館員が筆を握って移動図書館を想う「言葉」が拙著には内包されている。厚みのある重い重い1冊となった。

（いしかわ たかし：十文字学園女子大学）

「あいだ」に身を置き、とどまって考えるために

——シリーズ「あいだで考える」(創元社)

藤本 なほ子

シリーズ「あいだで考える」は、創元社より2023年4月に創刊した、10代以上すべての人のための人文書のシリーズです。

今の世の中には、とても複雑だったり両義的だったりして、どうしたらよいのか、どう考えたらよいのかわからないような、しかし大切な問いが多くあります。そういった問いに対して性急に答えを出そうとするのではなく、両極の「あいだ」にとどまり、じっくり考えるための多様な視点や考え方を提供する本づくりをめざしています。これまでに「ココロとカラダ」「リアルとオンライン」「被害と加害」「いのちと価値」「韓国語と日本語」などの「あいだ」をテーマにとり上げています。創刊当時の担当編集者二人でじっくり練りあげてつくった「創刊のことば」がコンセプトをよく表していますので、以下にご紹介します。



「創刊のことば」

私たちは、本を読むことで、他者の経験を体験できます。

本の中でなら、現実世界で交わることのない人々の考えや気持ちを知ることができます。

自分と正反対の価値観に出会い、想像力を働かせ、共感することができます。

本を読むことは、自分と世界との「あいだに立って」考えてみることなのではないでしょうか。

さまざまな局面で分断が見られる今日、多様な他者とともに自分らしい生き方を模索し、皆が生きやすい社会をつくっていくためには、白でもなく黒でもないグラデーションを認めること、葛藤を抱えながら「あいだで考える」ことが、ますます重要になっていくのではないのでしょうか。

シリーズ「あいだで考える」は10代以上すべて

の人のための人文書のシリーズです。書き手たちは皆、物事の「あいだ」に身を置いて考えることの実践者。その生きた言葉は「あいだ」を考えるための多様な視点を伝えます。それを読むことは、自ら考える力、他者と対話する力、遠い世界を想像する力を育むことを助け、正解のない問いを考えてゆくためのねばり強い知の力となってゆくはずです。

先の見えない現代、10代の若者たちもオトナと呼ばれる世代も、不安やよりどころのなさを感じ、どのように生きてゆけばよいのか迷うことも多いはず。

本シリーズの一冊一冊が「あいだ」の豊かさを発見し、しなやかに、優しく、共に生きてゆくための案内人となりますように。そして、読書が生きる力につながる実感を持ち、知の喜びに出会っていただけますようにと願っています。

読みやすさ・わかりやすさの工夫

全160ページ、本文2色刷を基本とし、本を読み慣れていない読者も息継ぎをしながら読み進められるよう、イラストを多用し、全体を章や節に分ける、章の初めの導入文や注、コラムなどを適宜設定するなど、一冊一冊の内容に応じて工夫しています。また、「わかったつもり」「なんとなく」の知識で物事や他者を捉えたくないの、言葉の意味や社会の背景は丁寧に解説します。

たとえば最新刊の中井敦子、森岡素直『ユニヴァースのこども 性・生・いのちのあいだ』では、「第三者からの精子提供」「トランスジェンダー、ノンバイナリー、クイア、LGBTQ+」「性同一性障害」に解説コラムをつけ、語の意味だけでなく、当事者たちのありようや法制度の変遷等も当事者の側から捉え、要点をつかめるように意を尽くしました。

このように当シリーズでは「わかりやすさ」を重視しています。しかしかといって、実際に複雑であること、その人の立場にならなければ理解できないこと、一見矛盾しているがその矛盾こそが大切である事柄などを簡単な形に改変したり、理路を端折ったりしては本末転倒です。大事な細部をとりこぼさず丁寧に伝えるよう努めています。

さらに、読書とは情報の摂取であるだけでなく、なによりも身体的な「経験」であるはずで、頭だけで理解するのではなく、読者それぞれの感覚と感性でその本の世界をまるごと受けとめてもらえるよう、デザイナーの矢萩多聞さんや本ごとに

決めているイラスト担当の方と相談しながら、なるべく自由な発想で編集しています。

これまでに、前述の『ユニヴァースのこども』のほか頭木弘樹、戸谷洋志、奈倉有里、田中真知、坂上香、最首悟、栗田隆子、いちむらみさこ、斎藤真理子、古田徹也の11冊を刊行。以下続刊で、12冊めは水俣病患者の支援を続ける永野三智の『からだに宿る声を伝える 水俣病と世界のあいだ』です（2026年3月刊行予定）。[シリーズ特設サイト](#)もどうぞご覧ください。

（ふじもと なほこ：フリー編集者）

DMかたるく

上野さん、主婦の私の当事者研究につきます

上野千鶴子+森田さち 1870円

家事、育児、夫との関係、ママ友社会——誰もが通り過ぎる日常の葛藤を、フェミニズムの第一人者と「当事者研究」してみたら——“主婦のリアル”を入口にした前代未聞の入門書。

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

東京書籍 **DK**

「アフリカ大陸」の
長大な歴史と文化の多様性、
そして各国の現状までを
すべて網羅した
待望の図鑑がついに誕生！

アフリカ全史

図鑑 **アフリカ全史**
AFRICA: THE DEFINITIVE VISUAL HISTORY OF A CONTINENT

400ページ | オールカラー **DK社編**
松田素二 日本出版権

詳しい内容は
こちらから **定価6930円(税込)**

ESTRELA ■2025年11月号
No.380/11月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

【特集】社会科学における公的統計マイクロデータの研究利用

■在宅介護負担が増える要因の探索
—社会生活基本調査・生活時間データを用いた検討—
岡 植(情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター 特任教授)
田上 紀代美(慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 博士課程)
山内 慶太(慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授)

■人びとはいつ働いているのか
—「社会生活基本調査」を用いた労働時間のパターン化—
香川 めい(大東文化大学 社会学部 准教授)

■家庭内での食事行動の運動は学歴によって異なるか
—学校段階別の分析から— 胡中 孟徳(東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター 助教)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階
TEL: 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

**10代がえらぶ
海外文学大賞**

A. パートン／高内悠貴 訳

ジェンダー史入門

西洋中心主義を超える基礎知識を網羅。
最良の入門書。 2420円

H. フロウ／福原正人 訳

戦争と平和の倫理学

戦争での殺人はなぜ許されるのか。正しい戦争はあるのか。 5720円


勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>お米はどこから来て、どこへいく？
稲・お米・ご飯 全3巻

服部栄養料理研究会・監修／稲葉茂勝・著／こどもくらぶ・編



令和の米騒動! 2024年、さまざまな理由からお米が不足し、値上がりしました。いま、あらためてお米のことを考えるシリーズ。

① お米の歴史

稲作のはじまりから現代のお米事情まで

② 世界のお米

主食がお米の国々に・世界のお米文化いろいろ

③ 学校とお米

写真で稲作学習・学校でお米を作ろう

● 揃定価：揃本体9,000円+税

● A4変型判／各32頁

● ISBN978-4-265-11184-8



この1冊が未来をつくる


岩崎書店 〒112-0014 東京都文京区関口 2-3-3-7F
TEL 03-6626-5080 FAX 03-6626-5085

須藤 靖(著)

宇宙する人生

東京大学最終講義

東京大学退任の最終講義をもとに書籍化。
宇宙論・系外惑星研究を牽引してきた著者が、
ユニークな視点で研究・教育・社会を語る。

● 予備1870円(税込) ISBN 978-4-535-79031-5

1月上旬刊

聞いて
納得!大学数学
質問箱

● 各定価2970円(税込)

ISBN 978-4-535-

79047-6

12月下旬刊

1月上旬刊

数学セミナー編集部[編]



大学数学の疑問点や躓きどころを質問・回答形式でじっくり解説! 第3弾は集合・論理・位相、第4弾は微分積分・線形代数の疑問に答える。


日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎ 03-3987-8621 <https://www.nippon.co.jp>

Asian Wind

- アジアと日本、そして世界を繋ぐ「風」のように -

NO.2 2025 Autumn

— Asian Wind —

■ムハマド・ユヌスの農民支援の社会活動

■過橋米線

■乾坤空間

■負の歴史、引き継がない

■アジアの本棚『南光』

■殖民地官庁建築様式の確立

■日本の世界遺産

— 亜洲之风 —

■穆罕默德・尤努斯的

農民支援社会活动

■长崎杂烩汤面

■理论与实践、以及“实践研究”

■日本の书架<<舞姫>>

■外国游客热衷的两个鱼场

■日本の世界遗产

一般財団法人 霞山会(文化事業部)

〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-47

電話:03-5575-6301 / FAX:03-5575-6306

<https://www.kazankai.org/>

新・教養としての経済学

より良い未来を選択するために

一橋大学経済学部 編

一橋大学経済学部の教員が、「経済学とはどんな学問なのか」をやさしく解説。ロジック、データ分析、歴史的視点を通じて、問題の本質に迫る経済学の醍醐味を多角的に伝える。自律的に物事を判断し、より良い未来を選ぶための羅針盤となる一冊。四六判 定価2,200円

認知科学をはじめ

「人間らしさ」の読み解き方

本田秀仁・林 勇吾・宮崎美智子 著

認知科学の広く深い世界を、その歴史と主要理論、技術を踏まえつつやさしく案内する入門書。人工知能と人間の比較から感覚・知覚・記憶・言語・推論・判断・意思決定・身体認識といった心のしくみを探り、「人間らしさ」を浮かび上がらせる。y-knot 四六判 定価2,530円


有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/> 価格は税込
日本海洋学会
日本海洋政策学会
編集海洋に関する
科学的知識を解説!
すべての人が海洋について
学び、行動するための
読んで学べる事典。B5判 352頁
定価5,940円(本体5,400円)
ISBN978-4-254-18068-8

朝倉書店

東京都新宿区新小川町6-29
〒162-8707 TEL.03-3260-7631